

向日が丘支援学校改築基本構想検討会議資料

(第2回)

資料1 …… 第1回会議における意見

資料2 …… 宇治支援学校について（近年の整備事例）

資料3 …… 向日が丘支援学校の目指す学校像

（参考3-1）静岡県立掛川特別支援学校の取組について

資料4 …… 検討テーマ(1) 教育活動について

■特別支援教育を推進し、様々な児童生徒に対応した教育環境の整備

■文化やスポーツ、地域の歴史やコミュニティを学ぶ活動拠点の整備

（参考4-1）乙訓地域における児童生徒数について（再掲）

（参考4-2）希望進路の実現に向けた取組状況について

資料5 …… 検討テーマ(2) 地域における学校の役割について

■共生型社会の実現に向けた地域、福祉等関係者との連携体制の整備

■地域の核を担う開かれた特別支援学校の実現

（参考5-1）福祉施設・特別支援学校との連携例について

（参考5-2）コミュニティスクールについて

平成30年10月26日

京都府教育庁指導部特別支援教育課

■ 第1回会議における意見

【1 改築に期待するもの】

- (ア) 学校は、児童生徒がほとんどの時間そこで生活をする場所であり、「特別支援教育を推進し、様々な児童生徒に対応した教育環境の整備」「文化やスポーツ、地域の歴史やコミュニティを学ぶ活動拠点の整備」の2点をまずは充実させてほしい。
- (イ) 限りある予算の中で、過大な施設設備を整備するのではなく、どのように教職員が使っていくのかというソフト面を考えなくてはならない。
- (ウ) 安全面を確保しながら、地域との交流を深めていただきたい。その上で、災害時に帰宅困難になった場合、また避難所になった場合等を想定した視点も取り入れてほしい。
- (エ) 生きていくための力を地域ぐるみで付けていくために、小中学校との連携も大切にしてほしい。教育相談、カウンセリング活動についても、充実させてほしい。
- (オ) 子どもたちの進路として、就労を含めた将来の見通しを保護者の方は考えておられる。施設設備だけではなく教育課程を整えていく中で、そうした進路面での不安を払拭できる支援学校を実現してほしい。

【2 学校と福祉との連携について】

- (ア) 障害者福祉の分野では、地域生活を支える拠点が求められており、教育と福祉の連携を密にした複合的な施設が必要である。また、福祉人材が不足しており、学校と連携して育成できるような機能を持たせることはできないか。
- (イ) 以前は施設の中で暮らしていた障害者が、今は地域で暮らすようになってきている。その生活を支援できるよう、教育と福祉がそれぞれの役割を果たしていける施設・整備としてほしい。

<第2回会議の進め方について>

各委員からお示しいただいた御意見、向日が丘支援学校の「目指す学校像」を踏まえた具体的な検討を進めることとする。

■ 宇治支援学校について（近年の整備事例）

（1）設置方針

市街地の立地条件を生かして、地域貢献型の開かれた学校づくりを進め、特別支援教育に関するセンター機能を発揮しながら、ノーマライゼーション社会の推進に貢献する学校

（2）教育目標

- ・一人一人の自立と社会参加を実現するために、児童生徒が地域と密着した活動の中で、生活する力、働く力といったよりよく生きる力をはぐくむ教育を推進する。
- ・日々「わかる授業」を大切に、自立と社会参加を目指す児童生徒一人一人の教育的ニーズにこたえる指導を進め、児童生徒が主体的に活動することにより可能性を伸ばし、社会に参加する生き方を身につける教育を行う。

（3）学校概要

ア 開校年月	平成23年4月
イ 設置学部	小学部、中学部及び高等部
ウ 児童生徒数	平成30年度 273人（開校時 223人）
エ 施設規模等	敷地 約22,421㎡ 建物 約15,657㎡ 校舎棟（鉄筋コンクリート造地上3階建（一部4階建）） 職業棟（鉄筋コンクリート造平屋建） 体育館（鉄骨造平屋建【既存棟改修】）

（4）学校施設の特徴

- ①「地域交流室」 … 地域との交流を重視した接遇実習室（カIJOY開設）
- ②「地域文化学習室」 … 京都と地域の文化を学ぶ茶室を備えた学習室
- ③「音楽堂」 … 児童生徒や地域の方の発表や交流の場
- ④「様々な教育環境」 … 水治訓練プール、生活学習室、職業棟など
- ⑤「緑に包まれた環境」 … 源氏物語ゆかりの花々や木々による緑化を行い、訪れる人々が癒される空間づくり（環境大臣賞を受賞）

（5）教育活動等の概要

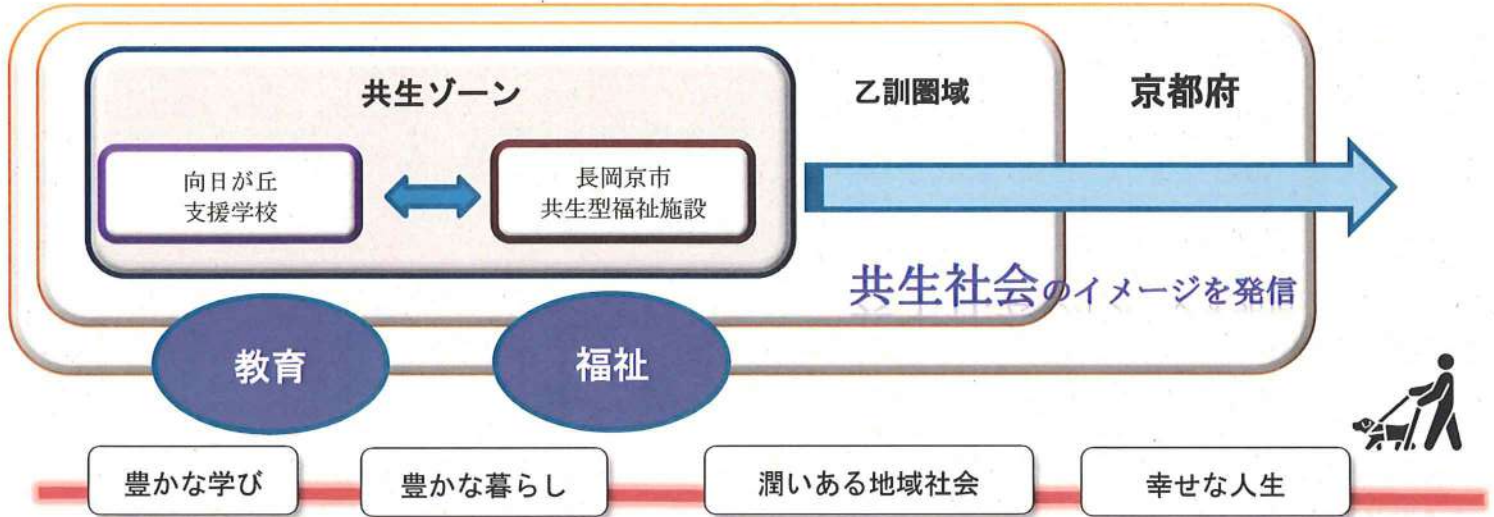
※別添資料「平成30年度宇治支援学校 学校要覧」

52年前に「夢と希望の学校」として生まれた向日が丘支援学校の教育を受け継ぎ、変化していく社会の中で、共生社会の担い手となる子どもたちを育む学校として更に発展させていくという観点から、以下のように「目指す学校像」を考察した。

1 改築後の向日が丘支援学校が目指したい姿

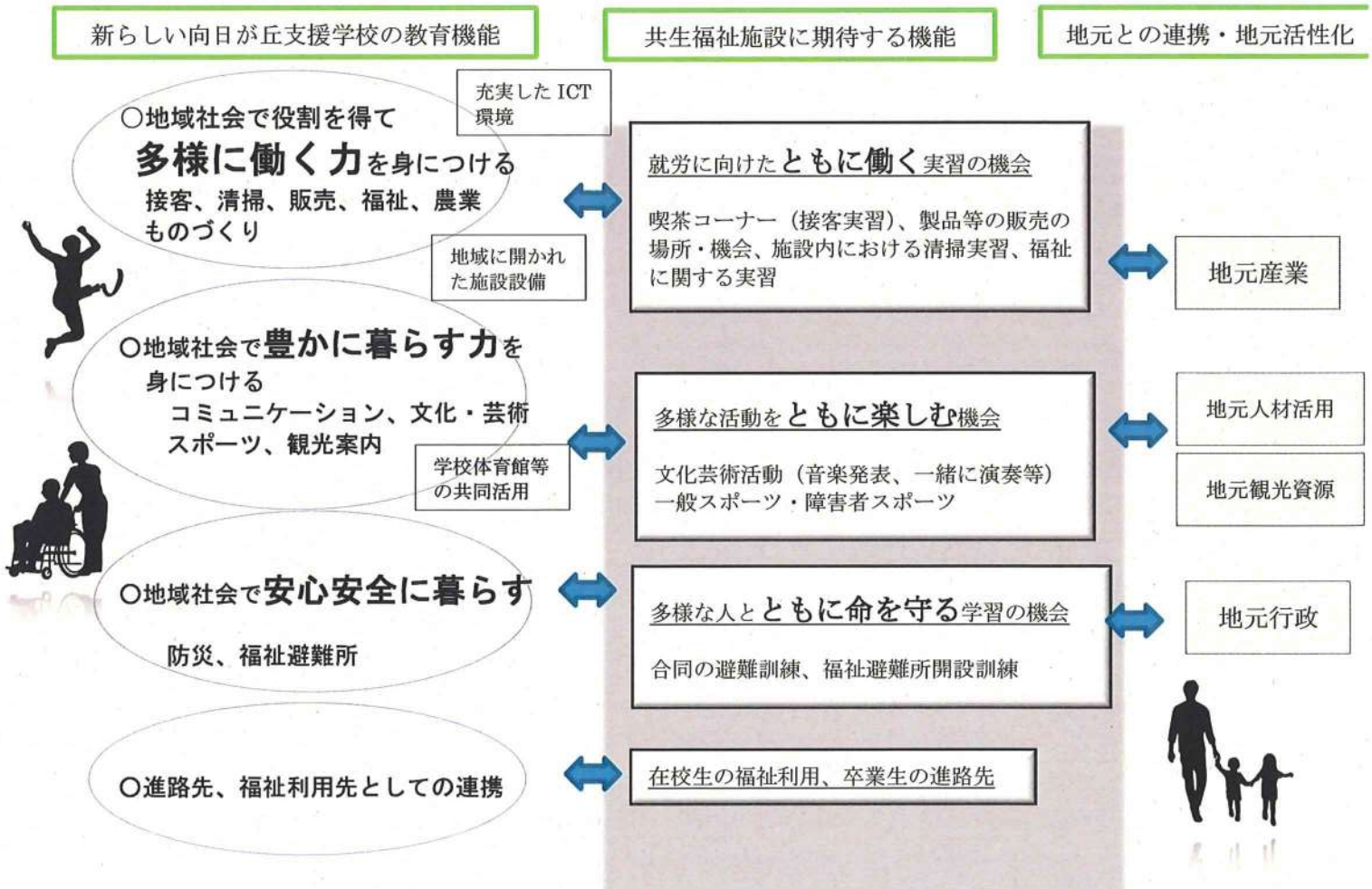
「地域社会とともにあり、地域社会に貢献する特別支援学校」

～これからの地域社会にとって、無くてはならない学校～



2 可能性溢れる学びの姿

～全ての教育が地域社会とともにある～



全体計画図

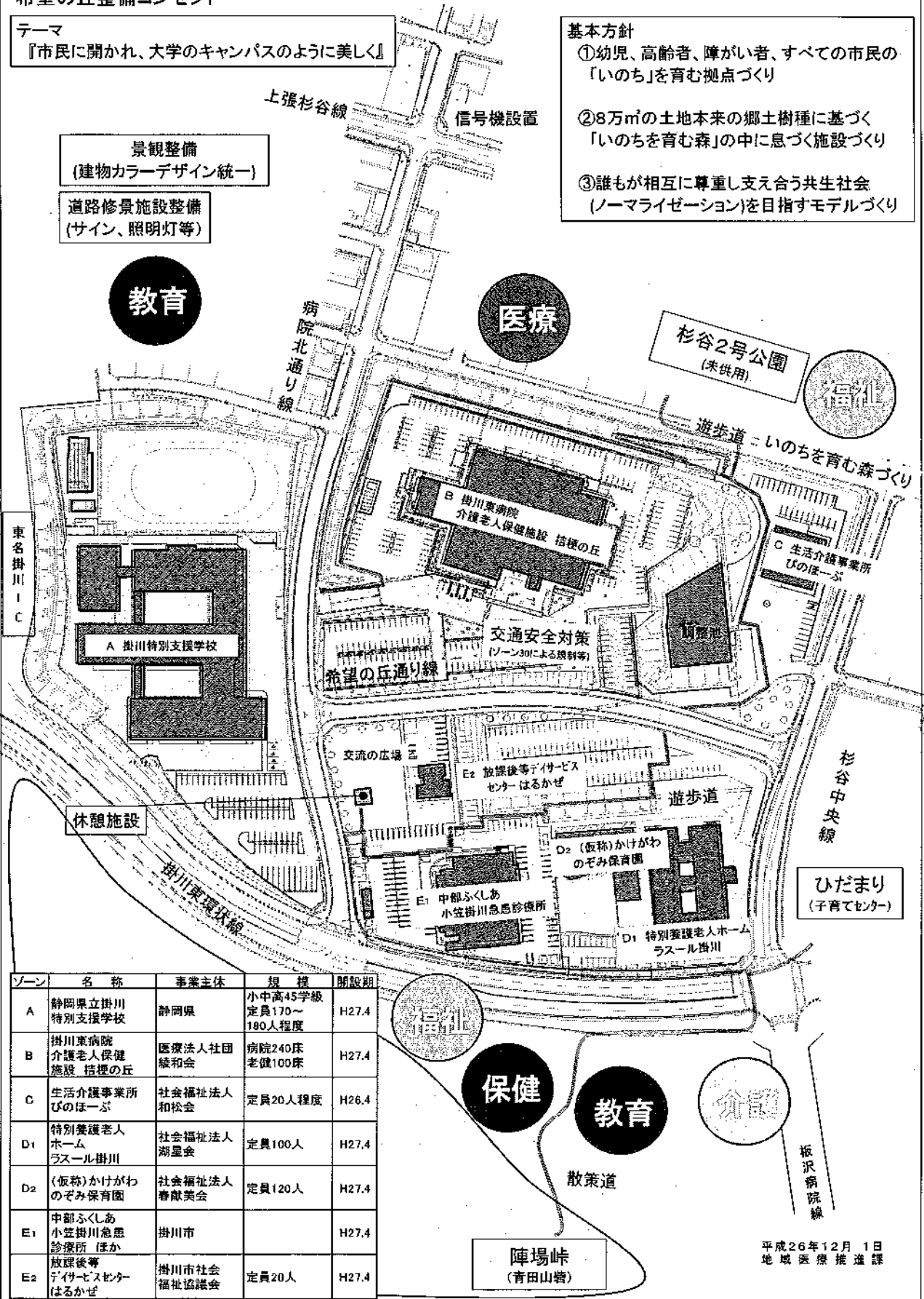
希望の丘整備コンセプト

テーマ
『市民に開かれ、大学のキャンパスのように美しく』

景観整備
(建物カラーデザイン統一)

道路修景施設整備
(サイン、照明灯等)

- 基本方針
- ① 幼児、高齢者、障がい者、すべての市民の「いのち」を育む拠点づくり
 - ② 8万㎡の土地本来の郷土樹種に基づく「いのちを育む森」の中に息づく施設づくり
 - ③ 誰もが相互に尊重し支え合う共生社会(ノーマライゼーション)を目指すモデルづくり



ゾーン	名称	事業主体	規模	開設期
A	静岡県立掛川特別支援学校	静岡県	小中高45学級 定員170~180人程度	H27.4
B	掛川東病院 介護老人保健施設 栢櫻の丘	医療法人社団 綾和会	病院240床 老健100床	H27.4
C	生活介護事業所 びのぼーぶ	社会福祉法人 和松会	定員20人程度	H26.4
D1	特別養護老人ホーム ラスール掛川	社会福祉法人 湖屋会	定員100人	H27.4
D2	(仮称)かけがわのぞみ保育園	社会福祉法人 善献美会	定員120人	H27.4
E1	中部ふくしあ 小笠掛川急患診療所 ほか	掛川市		H27.4
E2	放課後等サービスセンター はるかぜ	掛川市社会福祉協議会	定員20人	H27.4

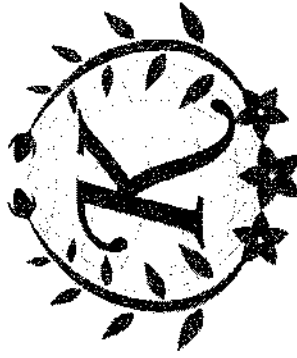
平成26年12月1日
地域医療推進課

静岡県立掛川特別支援学校

学校案内

学校教育目標

「元氣、笑顔、
夢の実現」



校草デザイン

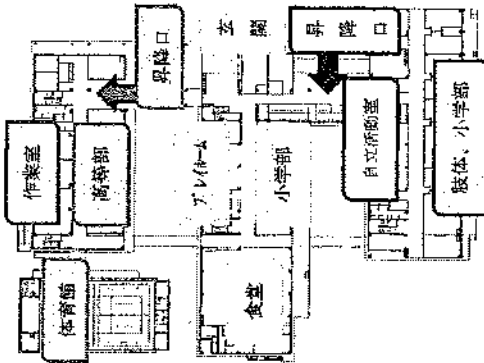
梅田 菜月さん

【校草の意味】

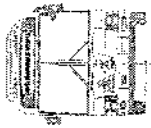
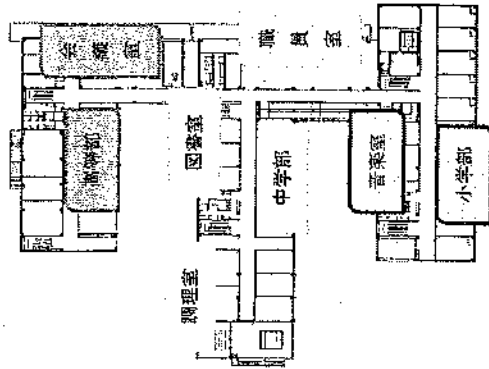
掛川市の花である桔梗を元に、花言葉「誠実」より誠実な人柄を育むこと、地域からの親しみという意味も込めました。上に向かつて伸びていく姿は自分の夢に向かい成長していく姿を、つぼみは可能性をイメージしました。背面には多くの人の関わりという意味を込め地球を配しました。地球の周囲で御前崎の「0」、中央の「K」で掛川・菊川・希望の丘を表しました。

校舎図

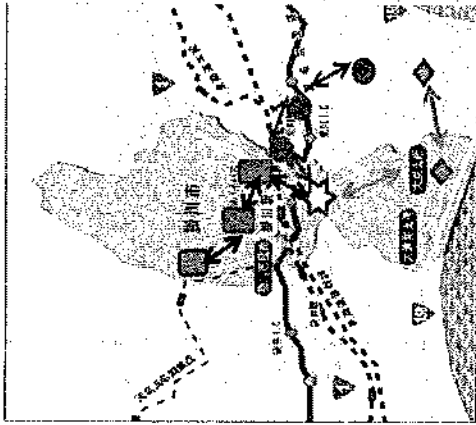
一階



二階



スクールバスコース



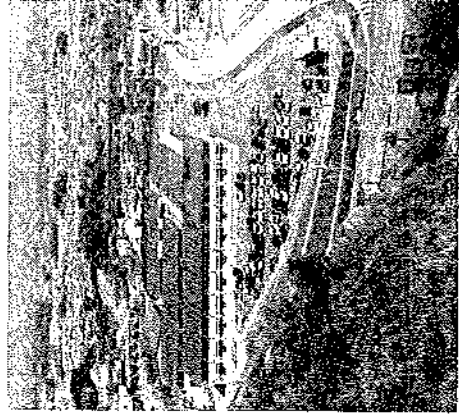
- ★ 掛川特別支援学校
- ◇ 浜岡総合運動場
- ◆ 大東支所
- 小笠平川会館
- プラザけやき
- 東遠学園
- あすなろ
- 生涯学習センター
- さんりーな

施設の特徴

- * 多様な障害をもつ児童生徒の利用に配慮した施設、設備
- * 全館バリアフリー、多機能トイレの設置、校内表示(ピクトサイン)各棟の色分け 等
- * 自然エネルギーを活かし環境負荷及びコスト削減を計画
- * ゼロエネルギー一化モデル事業
- * 教室、体育館等に県産材を使用

～ 陣場峠より ～

平成29年4月



静岡県立掛川特別支援学校は、知的障害のある子どもたちと知的障害に肢体不自由をあわせもつ子どもたちが通学する学校です。命の大切さを基本に、

一人一人の能力や可能性を最大限発揮できるよう、丁寧な指導・支援を行い、地域で自分らしい生活を築くことを目指します。

小学部

子どもたちが関わるものや人と関わりながら「やってみよう」という成功体験を積み重ねることをとおし、自立や社会性等生活全般の基礎的な力を養う。

学校教育目標

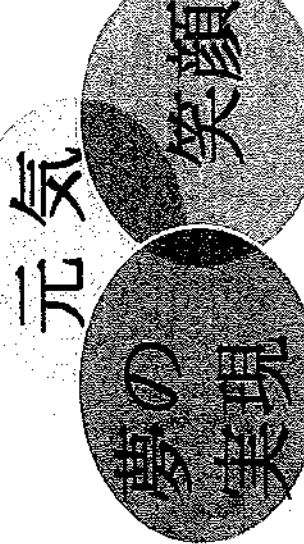
安心して学べる学校
主体性学びを促進する学校
地域とつながる学校

高等部

生徒一人一人の人格を尊重し、将来の自立と社会参加を促進し、地域の中で充実した生活を送ることができるよう力を養う。

中学部

生徒一人一人の自己肯定感を高め、生活自立と社会参加の基礎となる力を養う。



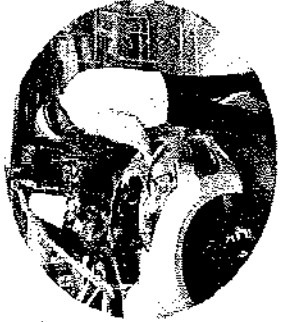
肢体不自由教育

子どもたちが関わり世界と生き生きと関わる姿を目指し、その基盤となる視覚・聴覚・運動・認知の成長・発達を促す。

始業式、入学式
4月
運動会
5月
終業式
7月
始業式
8月
ふれあいフェスタ
11月
終業式
12月
始業式
1月
公開授業
2月
卒業式 修了式
3月

御前崎分校

自立と社会参加を促進する学校
安全で生徒の個性が光る学校
共生・共育を推進し地域とともに歩む学校



静岡県立掛川特別支援学校

住所 〒436-0030 掛川市杉谷南一丁目1番2号
TEL 0537-29-6791 FAX 0587-23-3555
*掛川駅より徒歩20分
バス市街地循環線南回り
「希望の丘」下車

御前崎分校

住所 〒437-1612 御前崎市池新田2907-1
TEL 0537-85-7400 FAX 0537-85-3435

■ 検討テーマ (1)教育活動について

1 特別支援教育を推進し、様々な児童生徒に対応した教育環境の整備

①様々な障害特性のある児童生徒が主体的に参加できる個に応じた学習環境

取組例：ICT機器の活用など、個々の障害特性に応じた学びの充実

活用例：大型提示装置、タブレット端末を活用した授業や発表会
コミュニケーションやルールを学ぶプレイルームの充実

②学校卒業後の社会的自立に向けた、生活する力、就労につながる意欲・態度・技能等を学ぶ学習環境

取組例：児童生徒が学校卒業後も生活していくために必要な力を育成
高等部生徒の企業就労につながる活動、キャリア教育の充実

活用例：機能訓練や生活宿泊訓練、水浴訓練等の機能充実
清掃実習、販売・接客実習など就労につながる関連諸室
近隣店舗や施設での接客販売実習や清掃実習などの職場体験

③医療的ケア児への適切な対応など、安心安全な学習環境

取組例：医療福祉等関係機関と連携した安全管理体制の徹底

活用例：医療的ケアや様々な子どもの状態に配慮した教室機能の付加や動線

2 文化やスポーツ、地域の歴史やコミュニティを学ぶ活動拠点の整備

①地域の小中学校や福祉施設等との交流、共同学習を通じた共生社会を育む場

取組例：共同交流絵画展の開催、合唱や音楽活動による交流

活用例：多目的に使用できる交流学習ルームの設置

②伝統文化や地域の産業を触れ、伝える場

取組例：日本の伝統文化を学ぶとともに、地域住民や企業との交流

活用例：地元企業の見学や出前授業、学習成果の展示スペース
茶道など伝統文化を体験する和室等

③障害者スポーツの地域拠点となるグラウンドや体育施設、障害者技能検定会場としても活用できるフレキシブルな体育館

取組例：障害者のための生涯スポーツ大会や京しごと技能検定の会場など、児童生徒が集い交流や発信、社会参加に取り組む機会を充実

活用例：様々な障害者スポーツに取り組める体育施設

(ソフトボール、ミニサッカー、ポッチャや卓球など)

●乙訓地域における児童生徒数について

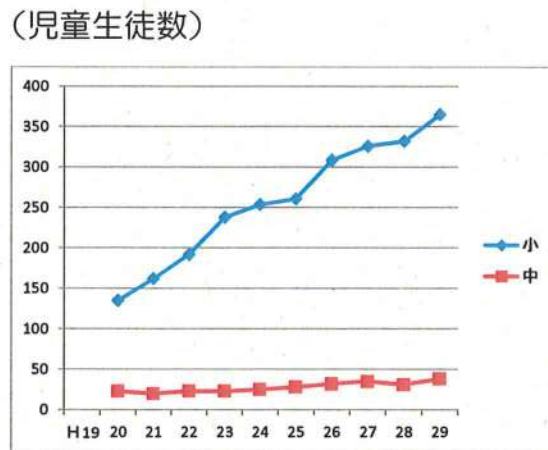
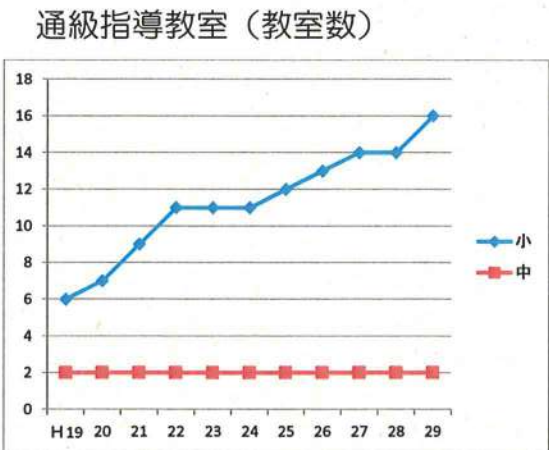
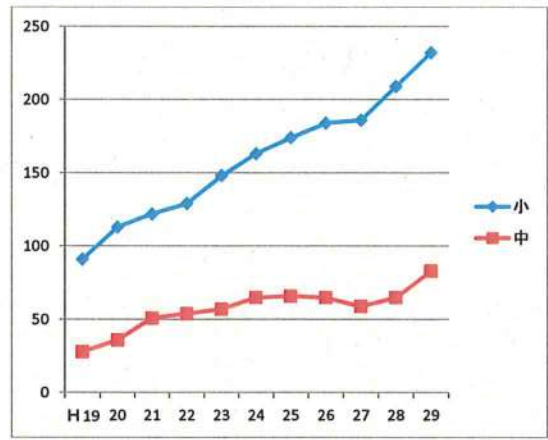
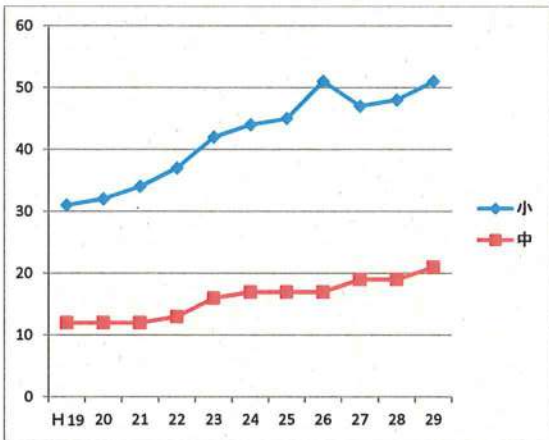
児童生徒数について

- ・児童生徒数は全体的に増加傾向
- ・学部別では地域の中学校卒業後、特別支援学校に入学する生徒が多いため、**高等部の人数が一番多い**



●乙訓教育局管内における特別支援学級等の児童生徒数推移

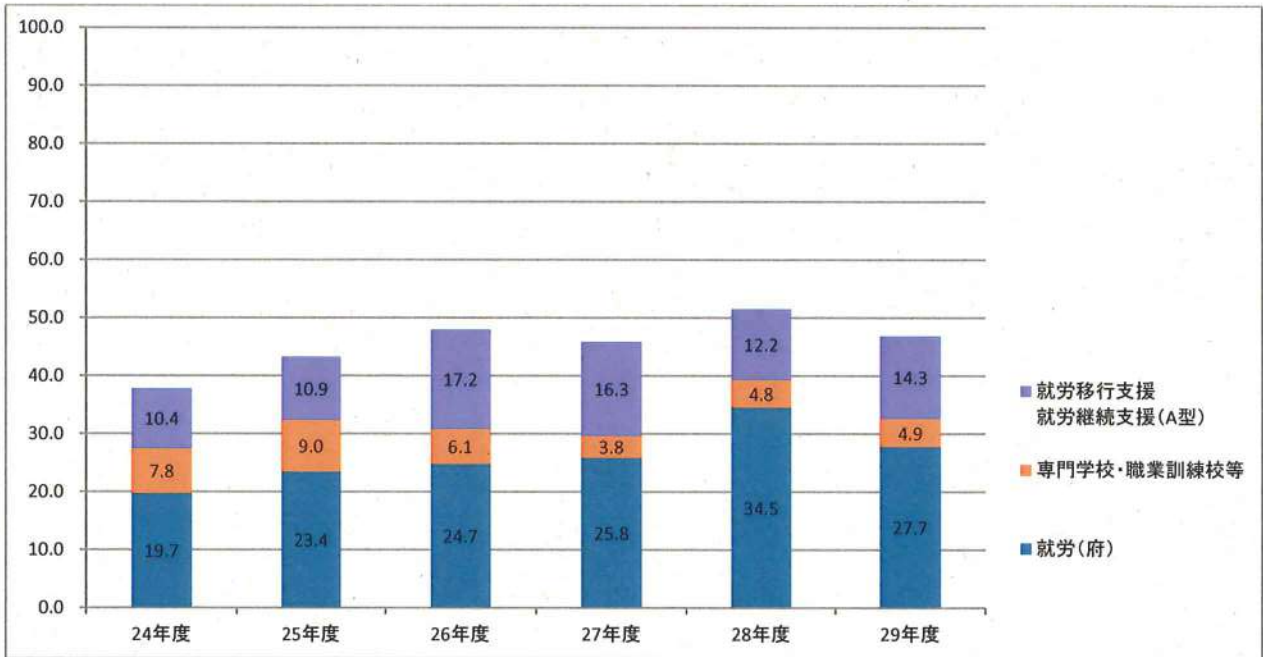
特別支援学級 (教室数) (児童生徒数)



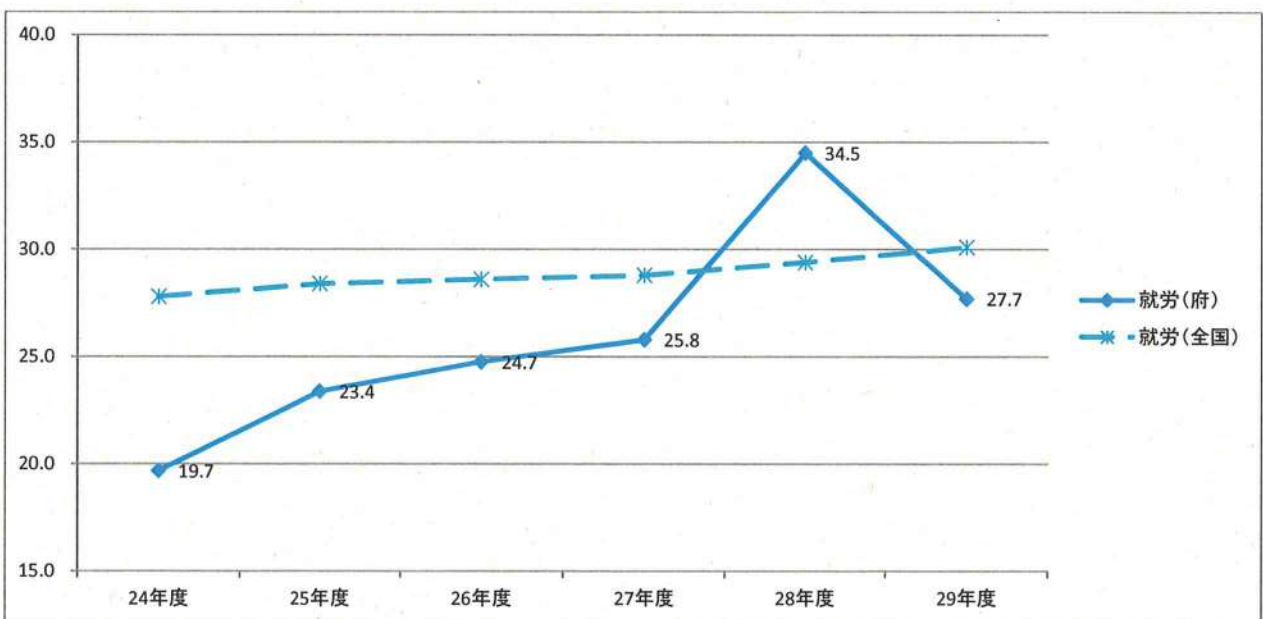
●希望進路の実現に向けた取組状況について（高等部卒業時進路状況）

- ・平成29年度卒業生の46.9%は、就労又は就労に向けた支援機関を進路としている。
- ・就労率は年々向上しているが、全国平均を下回る状況となっている。

① 就労関係進路別内訳の推移（企業就労＋職業訓練校＋移行支援事業所等）



② 就労率推移



■ 検討テーマ (2) 地域における学校の役割について

3 共生型社会の実現に向けた地域、福祉等関係者との連携体制の整備

①就学前から卒業後にわたる切れ目ない支援体制の充実

取組例：地域支援センターによる医療や福祉との連携強化

活用例：小中高校への巡回相談、発達相談や研修支援の充実

②支援関係機関をつなぐ横断的なカウンセリング機能の充実

取組例：児童生徒や保護者等との教育相談活動の充実

活用例：移行支援シートの作成と活用の促進、教育相談室等の充実

③長岡京市における共生型福祉施設構想との連携

取組例：特別支援教育と福祉サービスによる生涯を通じた支援の具体化

活用例：保護者が子育てに感じる将来不安の解消

④災害発生時の障害に配慮した避難所等の防災拠点

取組例：学校だけではなくエリア全体で対応する防災計画の共同策定

活用例：災害時の福祉避難所として、関係機関と連携した避難訓練等の実施

4 地域の核を担う開かれた特別支援学校の実現

①コミュニティスクール（学校運営協議会制度）の活用

取組例：学校と地域住民等が力を合わせる学校運営制度への移行

活用例：学校と保護者や地域住民、福祉等関係機関と協働した地域とともにある学校の実現

②地域住民や障害者等のつどいの場

取組例：生徒等が接客を行う喫茶店など地域住民が学校に訪れる機会を創出

活用例：交流カフェや学校製作品定期販売コーナーの設置

③保護者やボランティア、NPO法人等との交流の場

取組例：学校や福祉施設と協働する地域人材の養成

活用例：保護者へのレスパイトケア支援、交流相談ルームの設置

④障害者の生涯学習拠点としての場

取組例：NPO法人等による障害者向けICT教室の開催や体育施設開放など

活用例：地域生涯学習ルームの設置

車椅子バスケなどパラスポーツ競技が練習可能な体育館

福祉施設・特別支援学校との連携例について

- 就学前から特別支援学校卒業後にわたる切れ目ない支援体制を構築を目指し、地域社会・社会生活に円滑につなげることができる機能連携の方向性を検討する。
- 福祉施設が持つ生活支援機能と特別支援学校が持つ教育支援機能を相互に補完し、一体的に提供するために必要となる運営体制や施設設備を方向性を検討する。

○ 共生型福祉施設構想の機能に応じた学校の連携例

施設例	福祉施設機能の整備例	支援学校との連携例
①老人福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> ・独立した機能の施設 ・介護予防拠点としての機能 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習（清掃）や介護実習等の職業教育充実 ・異世代(高齢者)との交流
②地域生活支援拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・施設入所支援・短期入所 ・日中活動（生活介護、就労継続A型・B型、就労移行支援等） ・24時間対応の相談等 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業後の支援体制を見据えた支援計画作成と進路指導の連携
③児童発達支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・乙訓圏域の児童発達支援 ・医師等による診察、発達検査 ・事業所、保育所、学校等への援助 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域支援センター(学)の連携強化 ・医療福祉と教育をつなぎ、就学前から切れ目ない支援を充実
④児童入所機能	<ul style="list-style-type: none"> ・児童入所系施設との複合（障がい児入所施設、児童養護施設、児童対象ショートステイ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉と教育の一体的な支援による通学負担や保護者負担の軽減
⑤福祉人材育成機能	<ul style="list-style-type: none"> ・研修、実習・学生アルバイトの機会提供（人材育成、確保の仕組み） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ボランティアの受入（大学生等と児童生徒の交流） ・実習環境の多様化



学校を地域の核とした拠点づくりに向けた取組へ

福祉施設と学校の円滑な連携を進めるだけでなく、**地域住民をいかに取り込み、共生型地域社会づくりにつなげていけるか**が課題。

- ・ コミュニティスクール（学校運営協議会制度）の導入
- ・ 地域住民や障害者等のつどいの場
- ・ 保護者やボランティア、NPO法人等との交流の場
- ・ 障害者の生涯学習拠点としての場

